

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されることがないように、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
本市	16.16	19.89	34.46	41.16	50.80	9.47	152.45	22.02	54.09

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
本市	15.73	18.70	38.63	39.23	39.35	9.75	144.11	13.51	54.98

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析

運動やスポーツへ意欲的で、体育の授業を楽しんでいる児童は全国平均を上回っている。特に、体を動かす爽快感や、いろいろな技ができるようになる充実感、友達と協力して記録を伸ばしていく達成感を味わうことが意欲の向上につながっている。しかし、一週間の総運動時間は、男子は全国平均を上回っているが、女子は平均を下回っている結果となった。男女ともにその要因として、「運動する時間がない」ことが挙げられた。今後は、学校内外で運動する時間を十分に確保することが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

自ら主体的に探究しながら体を動かすことを目標に、体育の学習や運動会などの体育的行事に取り組み、成果が自信につながる場面を設定した。また、課題の克服に向けて、1単位時間内の運動量の確保し、ICTを活用した学び合いの場を設定することで、体力や技量の向上を実感できるようにした。筋力と柔軟性に課題があるので、体育の準備運動で継続して補うようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体育委員会が、遊び方の工夫をポスターにしたり、ラジオ体操のポイントを動画で紹介したりすることで、外遊びをする児童が増えた。また、異学年交流によるなかよし学年集会では、「運動の幅を広げる」という中学校区の目標を念頭に置いて、計画委員会がどの学年も楽しんで運動ができる集会を企画し、計画的に取り組んだ。また、運動量を確保するため、毎朝体育館を開放し、なわとびで体力向上ができるようにした。